

「クリエイションの未来展」第 20 回

清水敏男監修

Colliu 「ディア マイ プリンスーDear My Plinthー」

会期:2019年10月12日(土)~12月24日(火)



LIXILギャラリー「クリエイションの未来展」について

LIXILギャラリー企画「クリエイションの未来展」では、2014年9月より日本の建築・美術界を牽引する4人のクリエイター、清水敏男氏（アートディレクター）、宮田亮平氏（金工作家）、伊東豊雄氏（建築家）、隈研吾氏（建築家）を監修者に迎え、それぞれ3ヶ月ごとの会期で独自のテーマで現在進行形の考えを具現化した展覧会を開催しています。

| 本リリースに関するお問い合わせ先 |

LIXIL ギャラリー (<https://www.livingculture.lixil/gallery/>)

所在地：東京都中央区京橋 3 - 6 - 18 東京建物京橋ビル LIXIL : GINZA 2F

担当：大橋恵美・水野慶子

TEL. 03 - 5250 - 6530 e-mail. xbn@lixil.com



<http://www.livingculture.lixil/>

| 展覧会のみどころ |

「クリエイションの未来展」の第20回目となる今回は、美術評論家の清水敏男氏監修のもと現代美術の作品展Colliu「ディア マイ プリンスーDear My Plinthー」を開催します。

Colliuはモデル兼アーティストです。企業広告から雑誌、ファッションショーと幅広く活躍し、同時に美術作品を制作しています。最近では、シェル美術賞入選(2015)、〈六本木アートナイト2015〉(六本木交差点)、〈Prospect-Refuge (眺望ー隠れ家)〉(La foret TOILET GALLERY/2019)、〈RIMOWA Heritage Ginza〉(RIMOWA Store 銀座7丁目/2019)などで作品を発表しています。

オリジナルの人型キャラクターも登場する作品は、カラフルでフラット、単純化されたかたちが特徴的で、ドローイングや絵画、立体、インスタレーションなど様々なメディアで、独自の世界観を展開しています。Colliuは、雑誌や広告写真、街のグラフィティ、映画や名画、土偶、民族人形やテキスタイルパターンなどから、制作のインスピレーションを得ています。時代や場所を超えて誰もが面白いと感じる、普遍的な親しみやすい感覚の作品を制作します。街の気分や時代の匂いを、ヴィヴィッドにパワフルに表現した作品は、一瞬で見る者を惹きつける魅力にあふれています。本展では「台座」をテーマにした新作インスタレーションを展示します。



Exhibition "RIMOWA Heritage Ginza"
W5266×H3456mm (RIMOWA GINZA 7
chome store) 2019

| 開催概要 | 清水敏男監修

Colliu「ディア マイ プリンスーDear My Plinthー」

会 期 2019年10月12日(土)～12月24日(火)

開館時間 10:00～18:00

休館日 水曜日、11月24日(日)

企画制作 株式会社 LIXIL

会 場 LIXIL ギャラリー

東京都中央区京橋 3-6-18 東京建物京橋ビル LIXIL:GINZA 2F

<https://www.livingculture.lixil/topics/gallery/g2-1910/>

入 場 料 無料

| 関連企画 | トークイベント 清水敏男(美術評論家)×Colliu(美術家)

本展監修者の清水敏男氏と本展出品作家の Colliu 氏によるトークを行います。

開催日時 2019年10月21日(月) 18:30~19:30
 会場 LIXIL:GINZA 1F (東京都中央区京橋 3-6-18)
 参加 無料、予約不要



Exhibition "Prospect-Refuge (眺望-隠れ家)"
 (La foret TOILET GALLERY) 2019
 photo by Mino Inoue

| 「クリエイションの未来展」第20回の監修者について |

清水敏男 Toshio SHIMIZU



photo:
Herbie Yamaguchi

TOSHIO SHIMIZU ART OFFICE 代表取締役、学習院女子大学・大学院教授、キュレーター、美術評論家。

1953年東京生まれ。ルーヴル美術館大学修士課程修了。東京都庭園美術館、水戸芸術館現代美術センター芸術監督を経て、現在は展覧会やアートイベントの開催、パブリックアートのプロデュースを中心に活動している。主な活動に、「上海万国博覧会日本産業館トステムブース・アートディレクション」、「東京ミッドタウン・アートワーク」、「豊洲フロント・アートワーク」、「名古屋ルーセントタワー・アートワーク」、「いわて県民情報交流センター・アートワーク」、「ミューザ川崎・アートワーク」、「大手町フィナンシャルシティ・アートワーク」、「東京ミッドタウン日比谷・アートワーク」、「コレド室町テラス・アートワーク」、「オノ・ヨーコ BELL OF PEACE 平和の鐘(学習院女子大学)」、「THE MIRROR」。近著に『藤田嗣治作品集』(東京美術、2018)がある。

| 監修者からのコメント | 台座への偏愛

このたび紹介するアーティスト Colliu は彫刻の台座に関心があるとのことで台座をテーマにした展覧会を行うことになった。

彫刻の始祖を考えると日本の場合、縄文時代の土偶に行きつくだろう。土偶には台座がない。土偶が呪術の目的で製作され使用されたならば、土偶の持つ呪術性はこの現実世界になんらかの影響を及ぼすことが欲せられていたはずであり、土偶と人間との関係は直接的だったのではないか。それ故に台座は必要なかった。台座は土偶とこの現実世界を分け隔ててしまうものだからだ。

こうしたことを夢想していると、日本の例のみならず古代メソポタミアからエジプト、ギリシャから現代にいたるまでの彫刻と台座の関係を全て調べ直す必要が出てくる。古墳時代、馬の埴輪には台座がないが人型の埴輪には台座があるのはなぜか、キクラデスの小型彫刻には台座がないがギリシャの神像には台座がある、などなど多くの疑問が湧いてきてしまうのである。

話を Colliu や我々が生きている現代に戻そう。私はこれまで現代作家による多くの彫刻をプロデュースしてきた。アニッシュ・カプーア、リチャード・ディーコン、安田侃、ダニエル・ビュレンヌなど私のプロデュースした彫刻にはどれも台座がない。

ロダンは彫刻を建築から解放したがまだ台座があった。マルセル・デュシャンは彫刻から「彫刻する」という行為を取り払うと同時に台座を取り払った。ブランクーシ、タトリンも時として台座を無くしたが未だ現実世界から超然とした存在だった。そうした状況に変化が出たのは20世紀後半である。具体、実験工房、アルテ・ポーヴェラ、もの派、ヨゼフ・ボイスらは彫刻を現実世界と同じ空間に置きながら非物質世界（理念）を体現する、という方向に進んできたのだった。上記の作家たちの彫刻はこうした歴史的な事態の延長線上にある。

しかし今また台座に関心が戻ってきた。Colliu は台座を制作しそれを展示室に展開する。それらの台座は色彩も形状も彼女のこれまでの作品の特徴である単純化された形でフラットで鮮明な色彩に覆われている。

しかしここで重要なことは台座の上は Colliu の夢想の世界であることだ。それは床の間のような絶対空間であり、現実世界から超然としている。しかしもしも床の間ならそこになにか彫刻を置くことが可能なはずだが、ここでの台座はあまりにも個性的でありまた存在感がある。その上に物質的な彫刻を置くことは難しいかもしれない。それよりもイメージーションという非物質的な彫刻もしくは物質感を極力無くした彫刻が似つかわしいように思われる。そこでまた彫刻の始祖の土偶に戻るのだ。土偶のもつ呪術の力は結局はイメージーションの世界のなかにあるのであるとしたら Colliu の台座はそのイメージーションを支えるものとしてあるのではないだろうか。20世紀の彫刻は台座を無くし非物質世界（理念）を求める歴史だったがまだ形があった。Colliu は台座を復活させた代わりに彫刻を非物質化することを試みている。果たして彫刻が物質として完全に消滅することはないかもしれないが、ホログラムのようになってしまうかもしれない。それ故に、台座を愛さずにはいられなくなるのである。（清水敏男）



"Dance" H345×W400 mm wood 2016



Exhibition "ROOM" (CALM & PUNK GALLERY)
2017 Photo by Yutaro Tagawa



“BIRTH OF VENUS”
W4000×H1800 mm Acrylic paint on the wall (anis)
2017



“La Rêve”
W8920×H2620 mm Mixed media (NEWoMan ART WALL) 2017 photo by Ryosuke Kikuchi

プロフィール | Colliu | コリュ



アーティスト兼モデル。目が特徴的な人型のモチーフを中心にドローイング / 絵画 / 立体作品など、様々な手法で独自の世界を発表している。

- 2009 武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業
- 2011 〈GODHAND〉三井ガーデンホテル柏 (千葉)
- 2012 個展 〈たぶんバツハチー〉 island MEDIUM (東京)
- 2013 個展 〈カメレオンは憤死する〉 WALL 原宿 壁面 (東京)
 〈HELLO, SHIBUYA TOKYO〉 plaza singapore (シンガポール)
 個展 〈インナーマッスル展〉ランプハラジクト
 メヒコチード (大阪)
 個展 〈億千万のミニサラダ〉 渋谷パルコ part1 B1F ログスギャラリー (東京)
- 2014 〈国立奥多摩美術館～13日間のプレミアムな漂流～〉国立奥多摩美術館 (東京)
 〈小橋と Colliu の記念撮影展〉 Hikarie 8F (東京)
- 2015 二人展 〈めくるめくまくまくり展〉 GALLERY Momo Projects (東京)
 〈六本木アートナイト 2015〉六本木交差点 (東京)
 シェル美術賞 2015 入選
- 2016 個展 〈むこうがわ〉 BLOCK HOUSE (東京)
- 2017 〈La Rêve〉 NEWoMan ART WALL (東京)
 個展 〈ROOM〉 CALM & PUNK GALLERY (東京)
- 2018 二人展 〈KAN-KAN〉 NEW ALTERNATIVE GALLERY (鹿児島)
 個展 〈COTEN〉 NEW PURE + (大阪)
 二人展 〈KAN-KAN-NI〉 hitoto (大阪)
- 2019 〈Prospect-Refuge (眺望ー隠れ家)〉 La foret TOILET GALLERY (東京)
 〈RIMOWA Heritage Ginza〉 RIMOWA Store 銀座7丁目 (東京)